

# 視 察 報 告 書

報告者氏名 小田桐 たかし ㊟

## 1 委員会名

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

## 2 期 日

平成30年1月29日（月）～同30日（火）1泊2日

## 3 視察地及び調査事項

(1) 1月29日（月） 愛知県日進市

ア 区画整理による市街化形成、児童生徒の増加に対応した学校環境整備について

イ 人口ビジョン・総合戦略について

(2) 1月30日（火） 愛知県長久手市

ア 長久手田園バレー事業について

## 4 所感等

### ■日進市について

市内を不連続に、組合施工で区画整理をしているために公共下水道整備や交通の連携、街の一体感、とりわけ市民同士の交流・連携に様々な支障を抱えていると思われる。

一方で、区画整理された地域のすぐそばにある自然や農地の重要性を誘致市民が身近に感じることを街の「良さ」に切り替えられれば、本市とは異なる街の展開も前向きに変化する可能性を持っている。

本市で実施されているTX沿線の区画整理は公的施行であり、連続性を持っているものの、市域の5分の1を占め、規模が大規模であるために事業期間の延長が事業費増（市負担の増大）や保留地処分収入の欠損に直結することを念頭に入れて比較検討・研究をしなければならない。

ただ本市同様に、流入人口の多さ、要望の多さに押しつぶされ  
そうな日々を送っているであろう日進市の職員の奮闘に頭が下が  
る思いをした。

ただし、教育現場への十分な認識が持てないまま、教育行政の  
一端を担うことを求めざるをえない職員体制、専門性の継続性を  
保障しえない職場を取り巻く環境は一人ひとりの職員の意識改革  
に問われている。流入人口、とりわけ選択肢を持ちえない児童生  
徒の人生に向き合う覚悟が日進市でも本市でも問われている。

同時に言うまでもなく、本市の小中学校の最大規模48学級の  
是非など議員個人、委員会、議会全体の見識＝責任が問われてい  
ると思われる。

#### ■長久手市について

日進市と異なり、連続的で集中的な地域における組合施行の区  
画整理によって、街の一体感が出ている。

目の前の生活に必死な流入人口を支えている自然環境＝農地保  
全への配慮が欠けてしまう（日々目にしないために思いやれない  
ことから、渋滞や通学路の安全が優先されてしまうことや自治会  
加入率が自然体で50%を切るなど人間関係の希薄化が進む中で、  
複眼的に間違見れない環境）可能性が高いと考える。

そのなかで、開発圧力が高まり、なくなってしまう農地の保全  
への努力＝農業学校を始めとした取り組みや努力には、農業をめ  
ぐる情勢を踏まえても、頭が下がる。

とりわけ、24人の卒業生のうち、15人が新規就農者になっ  
ている取り組みが年間200万円弱という取り組みは、本市の新  
川耕地の農家の思いを支え、営農法人化する取り組みに役立つと  
思われた。